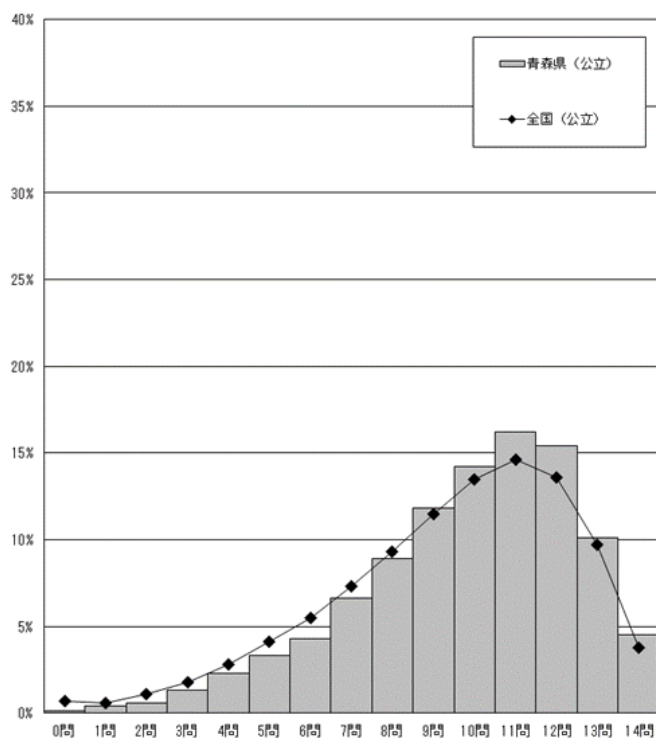


Ⅱ 小学校

Ⅰ 正答率

①国語

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県(%)	全国(%)
14問	6.5	5.9
13問	11.8	10.9
12問	13.7	13.2
11問	14.1	13.4
10問	12.8	12.4
9問	10.7	10.7
8問	8.8	8.9
7問	6.8	7.1
6問	5.2	5.6
5問	3.8	4.2
4問	2.3	3.0
3問	1.8	2.1
2問	1.0	1.3
1問	0.4	0.7
0問	0.1	0.6

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	12.0問	12.0問
第2四分位	10.0問	10.0問
第1四分位	8.0問	8.0問

□正答数分布グラフ・正答数集計値

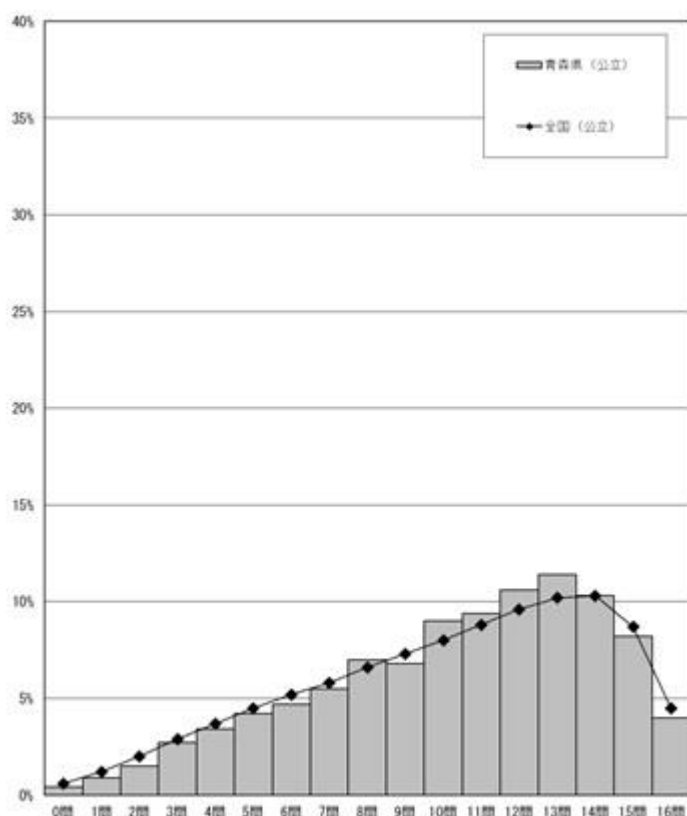
- ・10問以上の正答数の割合が、いずれも全国を上回っている。
- ・8問以下の正答数の割合はいずれも全国より少なく、特に全問不正解の割合が少ない。
- ・正答数8問と9問、9問と10問の差が、他の階級間と比べて大きい。

□四分位表

- ・第1四分位、第2四分位、第3四分位とも全国と同様の正答数である。

②算数

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県%	全国%
16問	4.0	4.5
15問	8.2	8.7
14問	10.3	10.3
13問	11.4	10.2
12問	10.6	9.6
11問	9.4	8.8
10問	9.0	8.0
9問	6.8	7.3
8問	7.0	6.6
7問	5.5	5.8
6問	4.7	5.2
5問	4.2	4.5
4問	3.4	3.7
3問	2.7	2.9
2問	1.5	2.0
1問	0.9	1.2
0問	0.4	0.6

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	13.0問	13.0問
第2四分位	11.0問	11.0問
第1四分位	8.0問	7.0問

□正答数分布グラフ・正答数集計値

- ・正答数0～7問の割合が全国と比べると少ない。
- ・正答数10～13問の割合が全国と比べると多い。
- ・正答数15、16問の割合が全国と比べると少ない。
- ・正答数7問と8問、9問と10問の差が、他の階級間と比べて大きい。

□四分位表

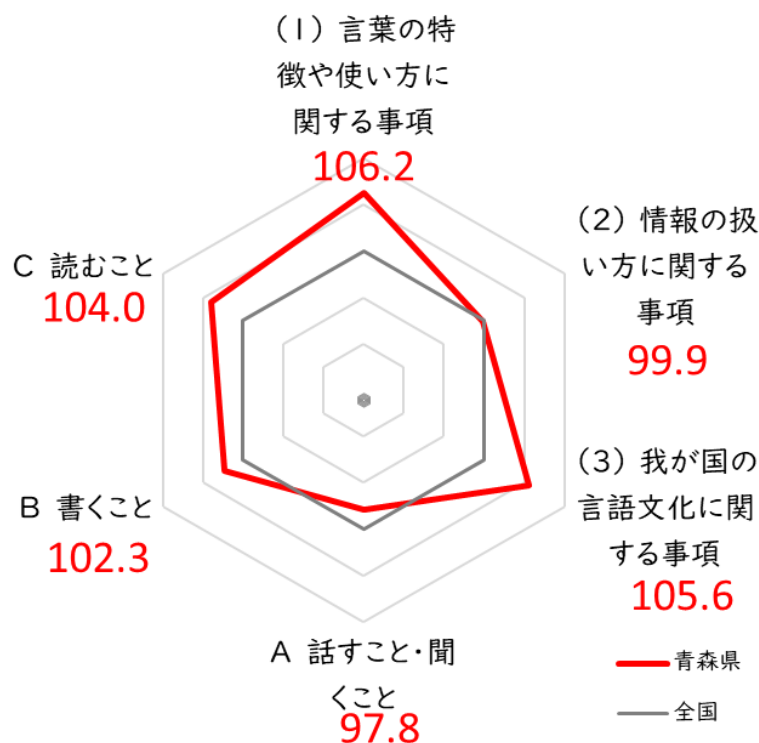
- ・第3四分位数、第2四分位数は、全国と同じ状況である。
- ・第1四分位数は全国7.0問に対し、青森県8.0問と全国に比べて1.0問高い状況である。

○正答数0～7問の割合が少なく、正答数10～13問の割合が多いことから、低位層の学習内容の定着、中間層への学習内容の理解を深める指導が行われていることがうかがえる。

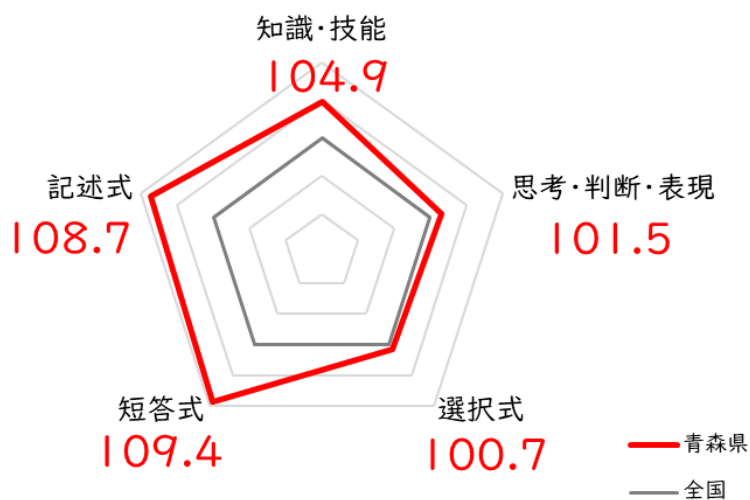
2 領域別の正答率

①学習指導要領の内容及び評価の観点、問題形式

(ア) 国語

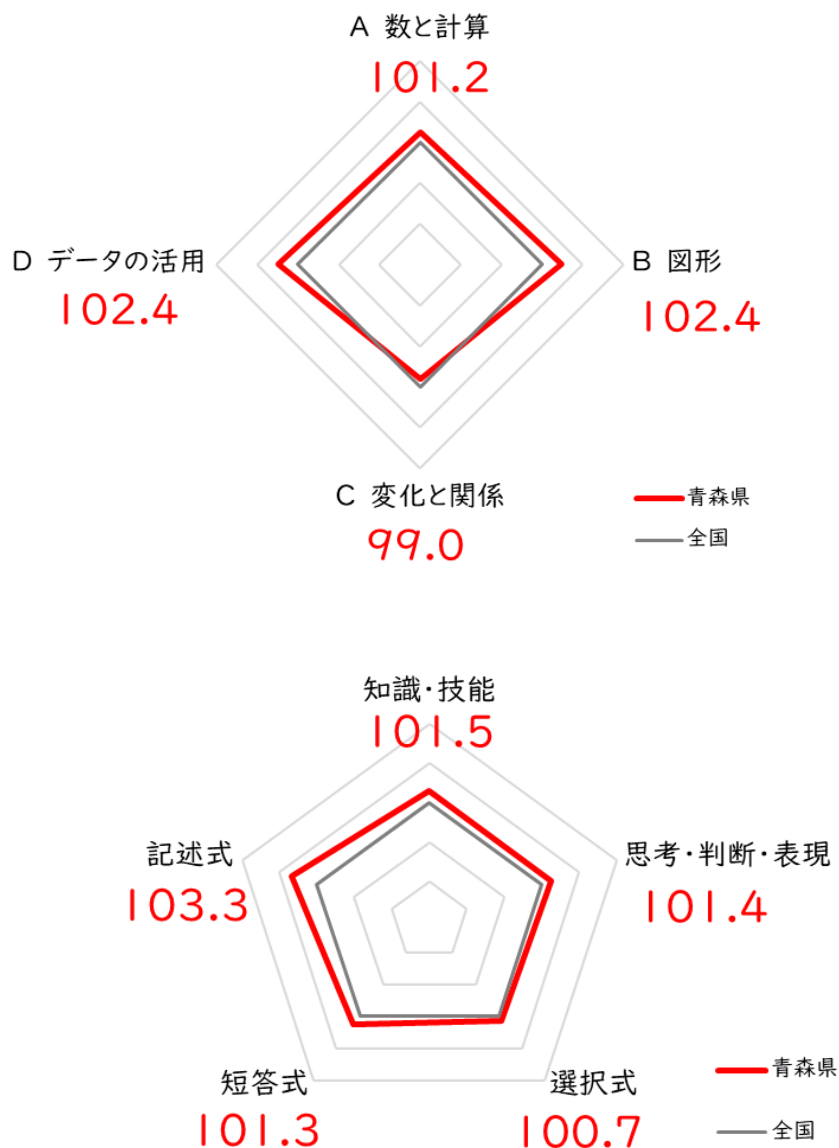


※全国を100とした時の本県の割合
以下同様



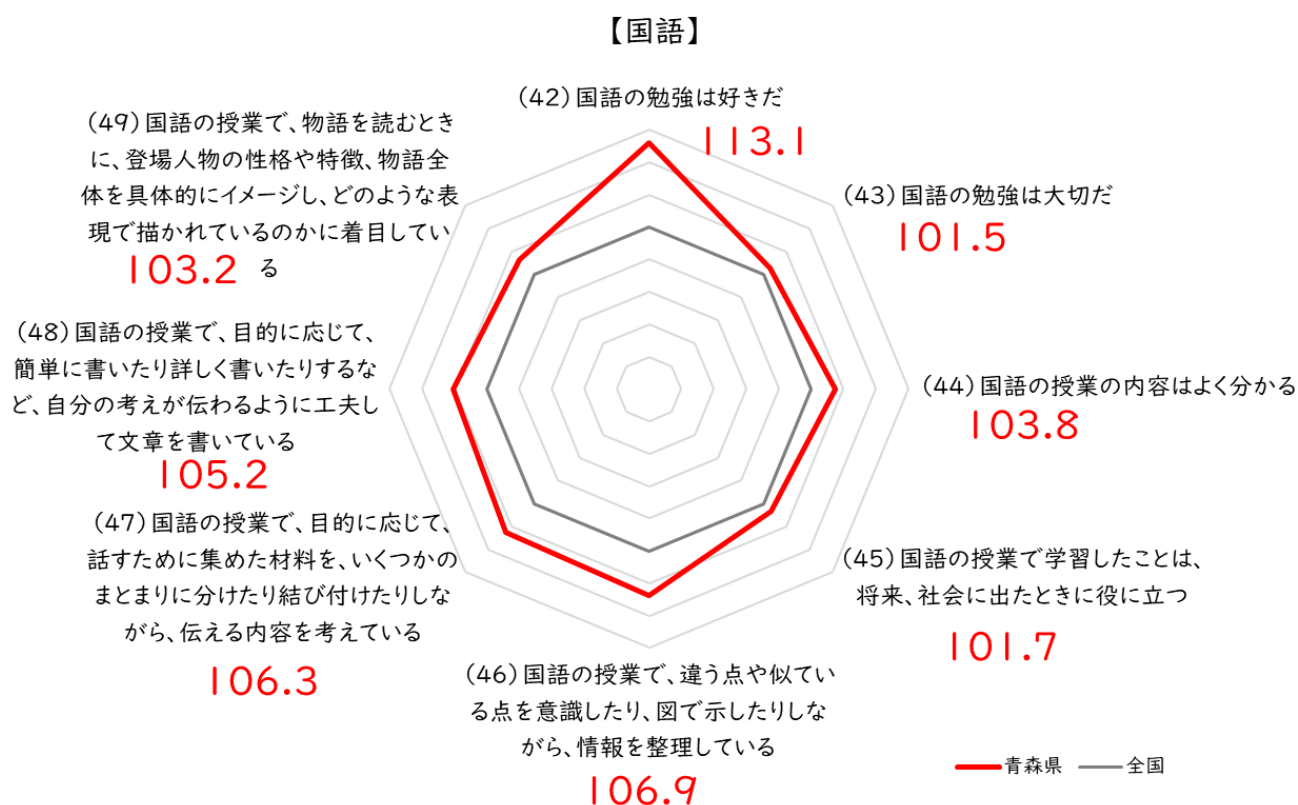
- ・学習指導要領の内容[知識・技能]の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国を上回っている。
- ・学習指導要領の内容[知識・技能]の「(2)情報の扱いに関する事項」は、全国をわずかに下回っているものの「知識・技能」全体でみると全国を上回っている。
- ・学習指導要領の内容[思考・判断・表現]の「A 話すこと・聞くこと」は、全国を下回っているものの「思考・判断・表現」全体でみると全国を上回っている。

(イ) 算数



- ・領域別では、「A 数と計算」「B 図形」「D データの活用」が全国をやや上回り、「C 変化と関係」が全国をやや下回っている。
- ・観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点ともに全国をやや上回っている。
- ・問題形式別では、「記述式」「短答式」「選択式」ともに全国を上回っている。

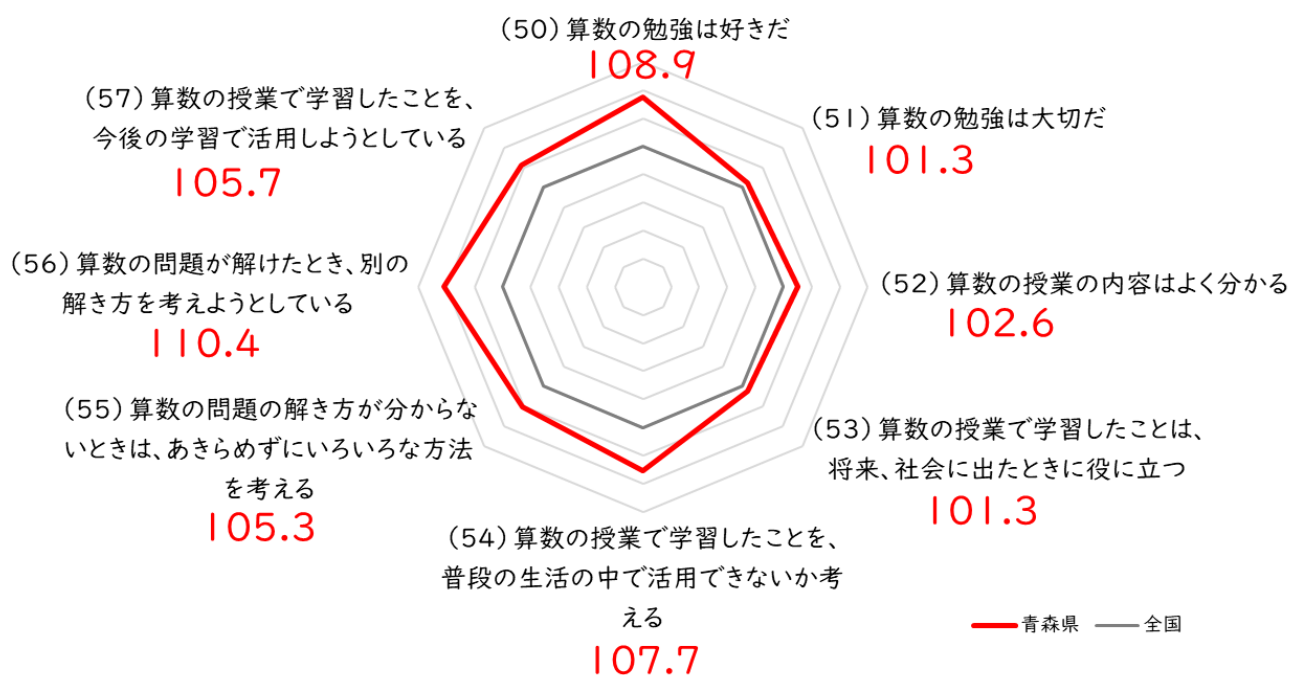
3 児童質問紙調査



- ・本県の児童は、全ての項目において全国を上回っている。特に(42)「国語の勉強は好きだ」と肯定的に受け止めている児童が多い。
- ・(46)「情報の整理」(47)「話すこと・聞くこと」(48)「書くこと」(49)「読むこと」に関する質問に肯定的に回答した児童が多く、いずれも全国を上回っている。

○(46)「情報の整理」に関する項目は全国を上回っているが、7ページの「情報の扱い方に関する事項」の正答率は全国をわずかに下回っており、児童の意識と正答率に差が見られる。情報と情報の関連付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を学習する言語活動の工夫が必要であると考えられる。

【算数】



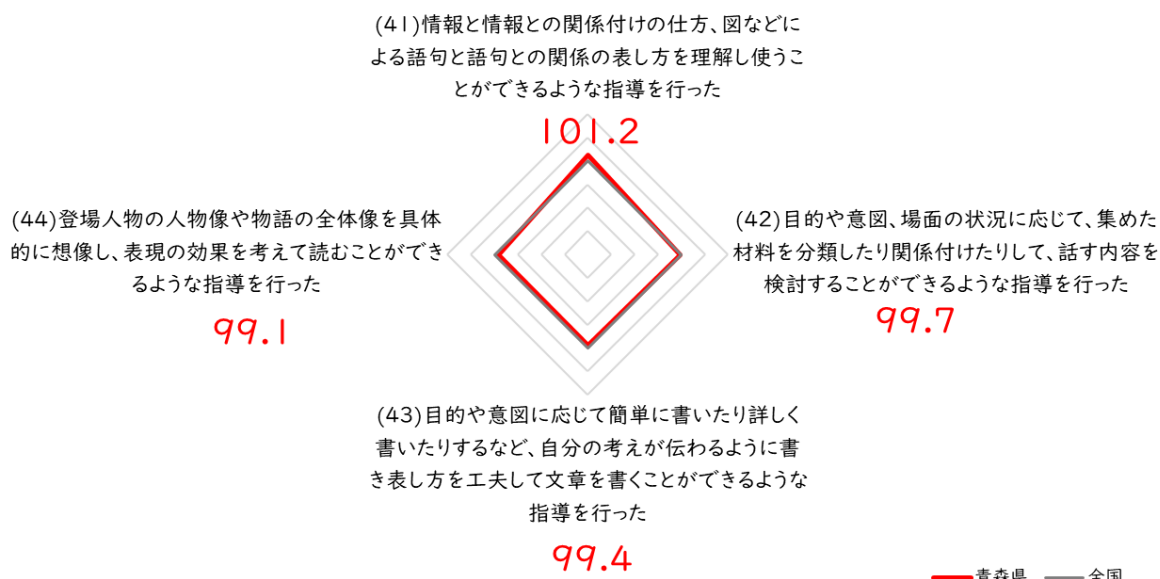
【算数】

- ・全項目で全国を上回っており、算数に関する興味・関心や授業の理解度は良好な状況にある。
- ・(56)「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている」(57)「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」において、全国を大きく上回っている。
- ・(55)「算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」において、全国を上回っており、調査問題においても、全国に比べ、すべての問題で無回答が少なかった。

○児童が算数を好きだと感じる授業づくりが行われている状況にある。

4 学校質問紙調査

【国語】



【算数】



【国語】

・概ね全国と同程度であるが、3つの項目で全国を下回っている。しかし、対応する児童質問紙の結果は全国を上回っており、児童の意識との間に差が見られる。

○(41)「情報の扱いに関する事項」に関しては全国を上回っているが、7ページの「情報の扱い方に関する事項」の正答率は全国をわずかに下回っており、一層の指導の充実が望まれる。

【算数】

・全国と同程度である。

☆上記項目に関する指導や活動を「よく行った」場合、全国、青森県ともに児童の正答率の高い傾向にある。

○現行の学習指導要領では、「日常の事象を数理的に捉えること」の重要性を強調しており、児童の発達段階に応じて広く算数の対象となる様々な事象を含めて考える必要がある。

5 指導改善のポイント

①国語

問題番号[2-(2)] [知識・技能]

(2) 情報の扱い方に関する事項

◇情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことはできているが、改善の余地がある。

○図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う。

「情報の扱い方に関する事項」についての正答率は良好であるものの、本県は86.8%と全国87.0%を下回っている。児童質問紙、学校質問紙の割合はともに全国を上回っているのに対し、正答率は全国を下回っている点から、教師のねらった成果が十分には出ていないと考えられる。授業においては、目的や意図に応じて複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりして、図示することが考えられる。図示することで情報は整理され、それにより考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができるということを見学自身が理解することが重要である。そのために、児童が必要に応じて図を選び、試行錯誤しながら使うという主体的な学習の展開の工夫が考えられる。

問題番号[1-(2)、1-(3)] [思考・判断・表現]

A 話すこと・聞くこと

◆集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討すること、資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。

○相手や目的を意識しながら、聞いたり話し合ったりすることを具体的に考え、関係する材料を整理する。また、その資料を用いて自分の考えが伝わるように表現する。

授業においては、相手や目的を一層意識させ、自分の伝えたいことや聞き手の興味・関心を予想して、情報量、優先順位等を工夫して資料を用意する場面を設けることが必要である。また、自分の考えが伝わるよう、資料を使いながら話したり、資料の順番を変えるなどして適切な時間や機会に資料を示したりといった表現の工夫について検討する場面を設けること、さらに、やりとりの練習をすることや実際に体験することを通して生まれた気づきを共有することが効果的である。このような言語活動を充実させ、児童が体験的に身に付けていけるよう学習の展開を工夫することが重要である。

問題番号 [3-(1)] [思考・判断・表現]

C 読むこと

◆登場人物の相互の関係や心情などについて、描写を基に捉えることに課題がある。

○登場人物の相互の関係や心情などについて、描写を基に捉える。

授業においては、低学年では挿絵を手がかりにして読むなどして内容の大体をつかむ、中学年では複数の叙述を基に登場人物の行動や心情を捉える、高学年では描写を基に登場人物の相互関係や心情などについて捉えるというように、系統的・段階的に指導することが重要である。登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている部分などに注目し、想像を豊かにしながら読む体験を積み重ねることが必要である。

<クロス集計から>

児童質問紙における「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問と正答率には、全国、青森県ともに相関が見られた。

各学年における主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善の効果が見られたと考えられる。

②算数

分析のポイント(課題)

- ・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することに課題がある。
(正答率 青森県66.3 全国70.0)

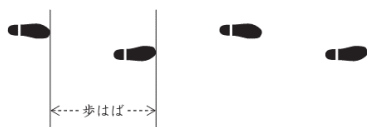
具体的な設問 [思考・判断・表現]

- ・大問4(2) 3分間で180m歩くことを基に、1800m歩くのにかかる時間を求める。

4 あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

- (1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 mです。あいなさんの歩はばを0.6 mとします。



家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。

$540 \div 0.6$ を計算しましょう。

- (2) たけるさんは、3分間で180 m歩きました。同じ速さで歩き続けると、1800 mを歩くのに何分間かかりますか。

答えを書きましょう。

○解答の分析

正答 30分(正答率66.3%)

誤答例 ①10分(12.1%) ②60分(6.9%)

- ・①のように解答した児童は、1分間で180m進むと誤って捉え、1800mを移動するのにかかる時間を求めていると考えられる。
- ・②のように解答した児童は、1分間あたりに進む道のりを求める $180 \div 3$ を計算し、その結果を解答していると考えられる。

○誤答例の解説

- ・速さなどの単位量当たりの大きさについて、理解できていない可能性がある。
 - ・道のりや時間という数量を適切に用いて計算できていないことが考えられる。
 - ・二つの数量の関係に着目できず、その関係を用いることができていないことが考えられる。
- ⇒1800mが180mの10倍であり、速さが一定であることから、道のりが10倍になればそれに伴って歩くのにかかる時間も10倍になることを用いたり、1分間あたりに進む道のりを求めてから、1800m歩くのにかかる時間を求めるなど、道のりと時間と速さの関係に着目して用いたりすることができるようになることが大切である。
- ⇒道のりが2倍、3倍…になれば、それに伴って歩くのにかかる時間も2倍、3倍…となり、道のりと時間が比例関係にあることに気付くことができるようになることも大切である。

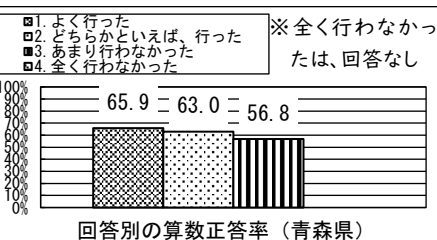
○指導改善のポイント

- ・学校質問紙調査(47)について、県内小学校の「よく行った学校」と「あまり行かなかった学校」の間で算数全体の平均正答率で9.1ポイントの差が見られた。
- ・授業改善のためには、「答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道立てて説明させる授業」を行うことが重要である。また、「日常生活の問題場面に照らし合わせて、求めた数量の大きさについて、妥当性を判断できるように指導の工夫」をすることも大切である。
- ・例えば、本設問または本指導例を用いて、単位量当たりの大きさの意味や求め方、日常生活における問題を比例の関係を用いて解決する考え方などについて、児童に説明させるような授業の工夫が考えられる。

クロス集計 学校質問紙調査×算数正答率

学校質問紙調査(47)

問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか。



この質問に肯定的に回答した学校の方が、算数全体の正答率が高い。